

2013 年度後期 工学部建築学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1N008001	世界建築史	1 年後期水曜 3 限	MORRIS MARTIN NORMAN	T1N 1
T1N028001	構造設計 I	2 年後期金曜 2 限	平沢 岳人	T1N 2
T1N051001	施設デザイン計画 II	3 年後期月曜 4 限	柳澤 要	T1N 3
T1N052001	施設デザイン計画演習 II	3 年後期月曜 5 限	柳澤 要	T1N 4
T1N058001	火災安全工学	3 年後期火曜 2 限	平島 岳夫	T1N 5
T1N059001	構造設計 III	3 年後期水曜 3 限	原田 幸博	T1N 6
T1N073001	図学演習	1 年後期木曜 4,5,6 限	吉岡 陽介他	T1N 7

授業科目名	: 世界建築史
担当教員	: MORRIS MARTIN NORMAN
年次・開講時限	: 1 年後期水曜 3 限
授業コード	: T1N008001
授業アンケート	: 回答者数 44 人 / 受講者数 81 人 (回収率 54%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q10. 授業では宿題、レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 43 件)

私は各週発表する世界建築史講義における時代やテーマについて、其々の学生は A4 一枚のスケッチとメモから構成されるレポートをまとめることを宿題としています。回答した学生の内、51% はそれが役に立っているとみて、さらに 25% はややそう思っているというのを聞くとうれしいです。レポートの中で、かなり見事に描かれているものがあり、時間をかけて丁寧に作成している人がいます。レポートは、建物を描く技術を向上し、建物の様子と歴史的な位置づけについてもより深く理解するようになる為に考えた課題ですので、この結果と良い方のレポートを見ると効果があるように見える。時間をかけている分、色々な技術を磨いていると思うので、頑張り続けてください。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

大半の受講者は実際に出席し、私の説明を聞いて、Powerpoint を見るのに苦労せず、授業の内容を、レポートから見ると、適切な理解のレベルまで達している。一部の人が Powerpoint の文字が見えないことの原因は、後ろに法に座る傾向によるかと思いき、前の方に座るようにお願いしたい。レポートの差はかけている時間時間の違いと図を描く才能の差によると言える。かなりの学生は力を入れて、丁寧に図を作成していることは評価ができる。教科書や参考書を実際に買い求めて、使用していることも、良いことである。最初のレポートを読んで、建築の歴史の特徴と重要性に関する認識と理解が適切なレベルに達していると言える。何とかの形で、より多くの人から質問がありましたらよいかと思えます。質問を聞く機会を増やしたいと思う。

### 3. その他のコメントや連絡事項

レポートの作成は、しっかりやるなら、かなりの時間を必要とすることを分かっているが、授業の時間中にレポートを作成ことをやめてほしい。授業の時間は授業の内容を聞き、Powerpoint と説明を通して、建築の歴史とそれを巡る議論に出会う機会である。是非集中して聞いてほしい。私も、内容の発展につとめたいので、よろしくお願いします。

作成(者): モリス、マーティン ノーマン

授業科目名	: 構造設計 I
担当教員	: 平沢 岳人
年次・開講時限	: 2 年後期金曜 2 限
授業コード	: T1N028001
授業アンケート	: 回答者数 37 人 / 受講者数 87 人 (回収率 43%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q1. この講義のシラバスについて、該当するものを全て選択して下さい。(回答 37 件)

シラバスが十分でないとする回答が 2 件あったが、可能な限りここは 0 件としたいと思う。

Q4. Q3 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するものを全て選択して下さい。(回答 2 件)

声が小さいに 1 件あるが、地声の大きさは十分であるのでこれは本当に意外である。これからは、もし聞き辛いことがある場合は遠慮せず申し入れて欲しい。

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか?(回答 37 件)

平成 25 年度の履修生は毎回の小レポートにも優秀なものが多く、教師としても気持ちよく講義が出来た。3 年生になってからもこの調子で。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

この講義は来年度から他の教員が担当することになっており、私にとっては最後の講義となったわけだが、学生達のまじめな履修態度にありがたく思った。

3. その他のコメントや連絡事項

構造設計 I は 26 年度より新進気鋭の若手教員が担当します。お楽しみに。

作成(者): 平沢岳人

授業科目名	: 施設デザイン計画 II
担当教員	: 柳澤 要
年次・開講時限	: 3年後期月曜 4 限
授業コード	: T1N051001
授業アンケート	: 回答者数 15 人 / 受講者数 36 人 (回収率 42%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 14 件)

15 人中 12 人が 5 (はい) を選択している (4.64)。今年度からアクティブ・ラーニング教室を利用しているが、複数画面を利用でき講義やクリッカーの画面の使い分けがしやすくなったこと、グループワークがしやすくなったことも原因として考えられる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 15 件)

15 人中、5 (はい) が 6 人、4 (ややそういえる) が 7 人となっている (4.27)。授業内容はわかりやすく心掛けたつもりであるが、専門性が高くやや難易度が高い内容もあったと考えられる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 15 件)

15 人中 12 人が 5 (はい) を選択している (4.73)。上記、内容の理解はやや難しい部分もあったようだが、授業にはほとんどの学生が満足している。今年度は教室環境 (アクティブ・ラーニング教室) や授業方法 (クリッカーやグループワーク導入) の改善も影響していると考えられる。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

以前からクリッカー (パーソナル・レスポンス・システム) を導入しているが、今年度から新しく整備されたアクティブ・ラーニング教室を利用して授業を行った。これにより複数画面を利用でき講義やクリッカーの画面の使い分けがしやすくなったこと、またグループワーク / ディスカッションがしやすくなり、講義・演習に対する集中度や興味も引き出されたと感じている。特にグループに分けてそれぞれ専門の画面を活用したグループワーク / ディスカッションではこれまで以上に熱心に討議が行われ期待以上の効果があった。今後は引き続きこれらの方法を踏襲・改善しながら、より一層のインタラクティブな授業となるような工夫をしていきたい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

特になし

作成 (者): 柳澤 要

授業科目名	: 施設デザイン計画演習 II
担当教員	: 柳澤 要
年次・開講時限	: 3年後期月曜 5 限
授業コード	: T1N052001
授業アンケート	: 回答者数 15 人 / 受講者数 35 人 (回収率 43%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q7. 教室の環境は満足できるものですか? (回答 15 件)

15 人中 13 人が 5 (はい) を選択している (4.80)。今年度からアクティブ・ラーニング教室を利用しているが、複数画面を利用でき講義やクリッカーの画面の使い分けがしやすくなったこと、グループワークがしやすくなったことも原因として考えられる。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 15 件)

15 人中、5 (はい) が 8 人、4 (ややそういえる) が 6 人となっている (4.47)。授業内容はわかりやすく心掛けたつもりであるが、専門性が高くやや難易度が高い内容もあったと考えられる。

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 15 件)

15 人中 11 人が 5 (はい) を選択している (4.67)。上記、内容の理解はやや難しい部分もあったようだが、授業にはほとんどの学生が満足している。今年度は教室環境 (アクティブ・ラーニング教室) や授業方法 (クリッカーやグループワーク導入) の改善も影響していると考えられる。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

以前からクリッカー (パーソナル・レスポンス・システム) を導入しているが、今年度から新しく整備されたアクティブ・ラーニング教室を利用して授業を行った。これにより複数画面を利用でき講義やクリッカーの画面の使い分けがしやすくなったこと、またグループワーク / ディスカッションがしやすくなり、講義・演習に対する集中度や興味も引き出されたと感じている。特にグループに分けてそれぞれ専門の画面を活用したグループワーク / ディスカッションではこれまで以上に熱心に討議が行われ期待以上の効果があった。今後は引き続きこれらの方法を踏襲・改善しながら、より一層のインタラクティブな授業となるような工夫をしていきたい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

特になし

作成 (者): 柳澤 要

授業科目名	: 火災安全工学
担当教員	: 平島 岳夫
年次・開講時限	: 3年後期火曜 2 限
授業コード	: T1N058001
授業アンケート	: 回答者数 29 人 / 受講者数 73 人 (回収率 40%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 27 件)

工 9-206 教室のプロジェクターは光が強くないので心配であったが, 25 名 (93 %) が「はい」を選択したので, 本授業に用いたスライドは見やすかったようである。数回の講義で様々な火災現象をビデオで紹介したのは好評であった。Moodle に掲載しているスライドを紙でも配布してほしいという意見があったが, 特別な場合を除き, 紙での配布は省略した。

Q10. 授業では宿題, レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 25 件)

本授業では主に期末試験で成績を評価しており, 授業スライドおよび教科書を用いて復習を行うよう指示した。8 名 (32 %) がどちらもないを選択しているので, 来年度は, 数回, 具体的な宿題を提示しようと考えている。本授業では演習がなく, 演習の時間を設けてほしいという意見があった。Moodle を利用して自主学習にて演習問題を行える環境も整えたいと考えている。

Q15. この授業の内容をよく理解できましたか? (回答 28 件)

12 名 (43 %) が「はい」, 14 名 (50 %) が「ややそうといえる」を選択しているので, 受講生はある程度まで内容を理解できたと感じたようである。一方, 例年よりもやや問題を増やしたせいか, 期末試験の平均点は 67 点であり, 復習などの不足で確実な理解に至っていないという印象も受けた。来年度は改善したい。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

まず授業評価アンケートに協力いただいた 28 名の学生に感謝します。今度の参考になる意見も頂きました。期末試験では構造 (耐火) の計算問題に関する正答率が低く, 計算問題演習に関する要望もありましたので, 来年度は改善したいと思います。

### 3. その他のコメントや連絡事項

この火災の授業では, 燃焼・煙流動・伝熱・構造・避難計画など内容が多様であるため, どの内容も導入部のみ説明をただけであり, 火災現象に興味を持ってもらうことと防火対策の重要性を認識してもらうことに主眼を置いています。毎回の講義スライドの末尾に参考文献を示しているの  
で, 更なる勉強を行う際に利用していただければと思います。

作成 (者): 平島 岳夫

授業科目名	: 構造設計 III
担当教員	: 原田 幸博
年次・開講時限	: 3 年後期水曜 3 限
授業コード	: T1N059001
授業アンケート	: 回答者数 14 人 / 受講者数 23 人 (回収率 61%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 14 件)

昨年度の 1.9 ポイントから今年度は 2.5 ポイントへ向上した。毎年、教科書を指定し、さらに詳細なスライドも Moodle サイトを利用して授業前に公開しており、予習と復習に十分な資料を整備するよう努めているが、学生自身による予習・復習に結びついているようである。今後も同様の整備を継続したい。

Q29. この授業で良かった点について記入してください。(回答 2 件)

「演習に多く時間が割かれ理解しやすかった」のコメントについては、やや演習時間が長すぎるとも感じていたが、学生は必ずしもそう感じていないのかもしれないと認識を新たにした。「説明が丁寧」のコメントについては、まだまだ回ごとのバラつきが大きいと感じており、各回の完成度を高めるよう努力したい。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。(回答 2 件)

「演習に必要な表を配布してほしい」のコメントについては、当方の教材の準備不足によるものであり、事前の準備にてよりいっそう注意をしたい。「出席点がほしい」のコメントは毎年受けるものであるが、「出席していること」を成績評価に反映させるつもりは今後もない。成績は「講義内容の理解度」をこそ評価すべきものと考えているからである。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業全体については概ね良い評価を受けていると考えている。教科書の指定・スライドの Moodle サイトによる事前配布といった予習・復習のための環境整備を今後も継続したい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

講義前半の部材設計に関する内容については、2 年次までに修得する構造力学・材料力学の知識の復習を促し、かつ 4 年次の構造設計課題の準備となるよう、演習課題や即日設計課題の内容を例年から大幅に変更した。この変更は概ねうまくいったと考えている。一方で、講義後半の接合部設計に関する内容については、見直しが十分に進んでいない。講義後半についても内容の再構成などの大幅な見直しを行いたいと考えている。

作成(者): 原田幸博

授業科目名	: 図学演習
担当教員	: 吉岡 陽介, 伊藤 潤一
年次・開講時限	: 1 年後期木曜 4,5,6 限
授業コード	: T1N073001
授業アンケート	: 回答者数 39 人 / 受講者数 77 人 (回収率 51%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 37 件)

本回答では, はい (62.2%)、ややそう思える (16.2%) として, 合計 78.4% が見やすいという回答を得た。学生からはスクリーンが小さいという意見があり, 後方の学生にも見やすい TV の部分配置や, 大きなスクリーンが設置される環境整備が必要であると考えている。

Q9. 例題, 例え話やサンプル等がわかりやすかったですか? (回答 39 件)

本回答では, はい (53.8%)、ややそういえる (28.2%) として, 合計 82% であった。概ね好評と考えるが, 今後も学生の意見を大切に, 写真やスライドなどで, わかりやすく説明するように努めます。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

本授業では, 建築設計の基礎的な技術を習得するために, 授業での講義をもとに, 各自が演習 (課題) にしっかりと時間をかける必要があります。設計技術は, 繰り返し練習を積むことで習得できるものです。そのためには, 授業での講義をしっかりと聞く必要があります。初めての建築設計の授業として, 学生は多くの課題にしっかりと取り組んでくれたことはうれしく思います。建築設計の技術は, 一朝一夕に体得できるものではなく, 地道な練習の積み重ねです。一旦体得した技術は忘れることはありません。その一歩がこの授業です。

### 3. その他のコメントや連絡事項

さまざまな建築を見に行ってください。素晴らしい建築は, 理屈ではなく, 必ず皆さんに何かを語りかけてくれます。その場に身を置くことです。スケッチ課題はそのためです。

建築を好きという気持ちの芽生えが, 皆さんに生まれることを期待しています。

作成 (者): 伊藤潤一